



JAL オリジナル 東北コットンハンカチの新作が誕生！



この冬も2,000マイルから特典交換ができる「JALミニマイル特典」のラインナップに東北で採れたコットンを織り込んだ新作のハンカチを掲載中です。全部で6種類、2枚をセットにしてあります。2,000マイルで「JALオリジナル 東北コットンハンカチ」に交換できますので、ぜひこの機会にご利用ください。

JALミニマイル特典
www.jal.co.jp/jalmile/use/mini_mile/

東北コットンプロジェクトに関する詳細は、
下記のウェブサイトをご覧ください。
www.tohokucotton.com/

この日収穫したのは、全体の5分の1ほど。畑にはまだまだ白い綿、そして大きなコットンボールが残っています。『耕谷アグリサービス』の佐々木さんは「まだできることがたくさんあります。来年は1.5倍の収穫を目指したい」と力強く語ってくれました。収穫量が増えれば、可能性も広がります。東北コットンはいよいよ次のステップへと進んでいます。

また、プロジェクトチームが種まきを手伝った東松島農場でも、収穫祭が行われました。ここでも前年以上に白くはじけた綿が広がり、各地から集まったボランティアと地元の方をあわせて200人以上が手分けをして、農場とビニールハウス栽培の綿を摘み取りました。

成田空港勤務の佐藤綾美は岩手県出身で、復興に携わる仕事を目標としています。

たときJALの東北支援活動を知り、入社を志望したと言います。「東北コットンのボランティアもずっと来たいと思っていました。入社して間もないですが、参加してよかったです」。綿の実りのように、東北とのつながりもふくらんでいます。



農場近くの小学校の子どもたちが、昨年に続いて参加してくれました。「東松島の綿」は地元にも根付いています。

待望の実り！ 東北の畑に咲き誇る白い綿 東北コットンプロジェクト—5年目の収穫

晩秋の綿花畑に、
うれしい光景が広がっていました。
見渡す限りの、真っ白な綿・綿・綿……。
被災農家さんたちのたゆまぬ努力が実を結び、
見事な収穫を迎えることができた
5年目の東北コットンです。

文/宮川真紀 撮影/中野幸英



被災した東北の畑が 綿花で埋め尽くされた

震災後すぐに始まった東北での綿花栽培は、早くも5回目の収穫を迎えました。

津波被害を受け稲作ができなくなった農地で、塩害に強い綿を栽培して農業の復興を目指し、新たな産業を生み出すという目標を掲げて、プロジェクトは活動してきました。

綿花は暖かい地域で育てられることが多く、また日本ではほとんど栽培されていません。気温が低い東北沿岸部で、被災された農家さんたちが初めての植物を育てる、というのは大きなチャレンジでした。

しかし、この挑戦は今回見事に実を結びました。宮城県名取市の『耕谷アグリサービス』の畑に、溢れんばかりの綿花が実りました。

仙台空港にほど近く、管理する農地のほとんどが津波にのみ込まれた『耕谷アグリサービス』では、震災直後の5月、ごく小さい面積で実験栽培を始めた。その後、ビニールハウス栽培で一定の成果を挙げ、露地の畑での本格的な収穫を目指して栽培担当の佐々木和也さんが中心となって研究を続けてきました。実を多くつけるために、種をまく時期を考え、開花時期を早めさせ、植える間隔や成長時の気温を計算するなど、さまざまな工夫をした結果、豊作というにふさわしい実り

を迎えることができたのです。

念願の収穫作業に多数のチームメンバーが集まりました。実からはじめてもくもくと膨らんでいる綿をつまむと、すーっと伸びて自然と外れます。なかなか体験することのできない綿の摘み取りをぜひ子どもたちに、と家族連れの姿も目立ちました。JAL仙台空港勤務・鈴木有香子もふたりの息子たちと参加しました。震災時に空港で被災した鈴木は「震災後3日間水が引かず空港から出られませんでした。そのすぐ近くで今この光景を見られるのは感慨深いです。震災を風化させない、いい機会ですね」と話します。



綿摘みは参加者の多くが初体験。大人も子どもも夢中になって摘み取りました。



東北の未来を若者に託す『SKY BATON』第3弾 子どもたちの夢への歩みを応援しませんか？



教育クーポンを利用して英会話教室で学ぶ子どもたち。
photo by Natsuki Yasuda/studio AFTERMODE

『SKY BATON』東北応援チャリティ・マイル 第3弾 「チャンス・フォー・チルドレン」

2016年3月20日(日・祝)まで、1口3,000マイルより受付中。
詳しくは、下記URLにてご確認ください。

www.jal.co.jp/jalmile/use/charity/

2013年、JALグループが次世代育成と被災地支援のため、立ち上げた『SKY BATON』。その第3弾として、JALグループは引き続き、被災した子どもたちの学びの機会を応援します。

公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン (CFC) は、震災で家庭の経済状況に大きく影響を受けた子どもたちに、塾や習い事などで利用できる「教育クーポン」を給付することで、子どもたちが夢に向かって学ぶ機会を提供しています。昨年度実施した『SKY BATON』第2弾では、このプロジェクトを通じて、合計48名の子どもたち(小学生:30名、中学生:5名、高校生:13名)にJAL/CFC「教育クーポン」を贈ることができました。

あなたもJALチャリティ・マイルを通じて、子どもたちの夢への歩みを一緒に応援しませんか？ ご寄付いただいたマイルと同額をJALが加算して活動を支援。皆さまのマイルが2倍の価値で、被災地の未来を切り開くことに役立てられます。